

第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画（案）について、意見・要望・感想
（H28.1.11 締切）

頁	項目	説明箇所	意見・要望・感想	回答（考え方）
7 8	(3) (4)		●第3章の1（4）についての「市の考え方」の部分で、 ・ゴミの分別をしているが減量化になっていない→（なぜか？） ・だからエコの意識を高める必要があるという流れで、飛躍があるように見えます。 （4）課題の最後に書いてある、「ポイ捨てや不法投棄への対策」として、意識を高めるというのは理解しやすいですが、現状では、アンケートで分別への意識は高いが、ゴミ排出量は減っていない、 なので「ごみ減量の対策」として意識をもっと高める、という文脈になっており違和感があります。 （資料7「アンケート」の分析でも市民に分別の意識が広く浸透していると記載している）意識が高くても行動につながらないのであれば、さらに意識を高めることよりも減量化につながる行動を促進する仕組みや制度を検討するべきかと思います。 （分別に「雑紙」を加えて排出量が減少したように） または、こういったアンケートは環境意識の高い人の返送率が高く、まだまだ市民全体には不十分という意図がありましたら、本文中からアンケート結果の「実践していること」の部分は削除してしまって、「環境への満足度」の部分だけの記載で良いように思いました。（感想までに。）	・H26の市民1人1日当たりのごみ排出量の減少は、新たな分別方法もありますが、啓発に努めたことも減少理由と捉えていることから意識づけは必要と考えている。 ・2次計画において、「エコライフスタイルの実践」という取組でごみ減量に対する意識を高める取組を進める。 ・アンケートはこの項目で質問しているので、次回アンケートの時に検討する。
14	(4)	6行目	●第4章 3 自然環境・農業の成果指標が「市内公園の改築公園数」になっていますが、第3章の「課題」のところでも急にできており、本来なら丸加高原や菜の花畑を訪れる人数や、川づくり活動への参加人数など、自然環境への取り組みが挙がってくる流れかと思いました。 現状の「改築公園数」でいくなら、もう少し前の章でもこの点について導入が必要かと思いました。	・これまでの議論や計画に記載されている内容を踏まえて考えるとふさわしくないように思える。 ・環境市民委員会のワークショップの議論の中では、環境学習や農業体験などの機会の充実など自然を対象とした原体験の大切さが中心だったことから、体験に対す

頁	項目	説明箇所	意見・要望・感想	回答（考え方）
				る何らかの指標がふさわしい。 ・1次計画をみると、農業体験授業の実施校数を成果指標として設定しており、1次計画で目標達成できていないこともあり、この指標を削除することはふさわしくなく、2次計画の中で目標達成を目指す。
	第3章	全般	●第3章の構成について、先月提出した中でも触れました、項目立てにいろいろとバラつきが見られるように思います。 例えば、 （１）現状とこれまでの取組 （２）第一次計画における数値目標の達成状況 （３）環境に関するアンケート結果 （４）課題 となっていますが、同じレベルで並べる見出しとして違和感があり、 （１）第一次計画期間における取組 （２）第一次計画における数値目標の達成状況 ※アンケート結果は（１）に入れ込むか、または、（２）を数値目標の達成度とアンケート結果などどうでしょうか （３）今後の課題 など、あくまで一例ですが、内容を変えるわけではなく、もっと体裁を整えることが可能かと感じております。	・第1次計画以前からの取組を挙げている項目もあることから、（１）については、このままで進めたい。次回計画時に検討。 ・現状の取組とアンケート結果は別項目で分けた方が整理しやすいと考えた。

新旧対照表

環境基本計画（案）との比較

修正箇所一覧（頁は修正後の頁）

頁	項目・行数など	素案（旧）	案（新）
12	3（1）ア（ア） 10～11行目	市では、市民の憩いとなる <u>公園の改築も計画的に行っているほか、緑の潤いを与える街路樹の維持・管理も行っています。</u>	市では、市民の憩いとなる <u>公園や、緑の潤いを与える街路樹の維持・管理も行っています。</u>
12	3（1）ア（イ） 2～3行目	市内には、国内3番目の長さを誇る石狩川とその支流に当たる空知川の2大河川が流れ、そのほか、須麻馬内川、熊穴川、江部乙川、ラウネ川など <u>20を超える</u> 河川があり、川はまちのシンボルとして市民に親しまれています。	市内には、国内3番目の長さを誇る石狩川とその支流に当たる空知川の2大河川が流れ、そのほか、須麻馬内川、熊穴川、江部乙川、ラウネ川など <u>多くの</u> 河川があり、川はまちのシンボルとして市民に親しまれています。
24	3（2）ア 2）	◆公園の適切な維持修繕に努め、 <u>計画的な改築を実施し、利用者の安全確保をするとともに、生活環境形成の中で公園の持つ多様な機能を活かしたあり方を検討します。</u>	◆公園の適切な維持修繕に努め、 <u>利用者の安全確保に努めます。</u>
25	（3） 1	・No.2の指標と目標をNo.1へ移動する。No.2は、下記の指標とする。 ・成果指標の変更により、取組内容の順でNo.2が先の順位となる。	
25	（3） 2 指標	<u>市内公園の改築公園数</u>	<u>農業体験授業（事業）の実施校数（保育所・幼稚園を含む。）</u>
25	（3） 2 目標	<u>計画期間における累計 16箇所</u>	<u>計画期間における累計 150校</u>
31	5	・成果指標の変更により、取組内容の順で6が5の順位となる。	
31	6	<u>5 市内公園の改築公園数</u> <u>【数値目標】</u>	<u>6 農業体験授業（事業）の実施校数（保育所・幼稚園を含む。）</u> <u>【数値目標】</u> <u>平成28年度からの累計150校</u>

頁	項目・行数など	素案（旧）	案（新）
		<u>平成28年度からの累計16箇所</u> <u>◇目標設定の考え方◇</u> ・市内公園の改築については、施設の健全性の確保と身近な緑の保全を図ることを目指し、平成28年度からの累計改築箇所を16箇所とします。	<u>◇目標設定の考え方◇</u> ・次世代を担う児童や若者を対象として、農業についての理解や関心を深めてもらうことを目指し、平成28年度からの市内学校及び保育所・幼稚園における農業体験授業（事業）の実施校数の累計を150校とします。 <u>【参考】</u> ・第1次計画の農業体験授業（事業）実施校数 目標値（平成23～27年度累計）40校 ・平成27年度農業体験授業（事業）実施事例 14校（米、トマト、じゃがいも等） 保育所 5 箇所、幼稚園 2 箇所、小学校 5 校、高校 1 校、國學院大學北海道短期大学部